平成３０年度自己評価計画書（最終評価）

石川県立田鶴浜高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度以降の取り組み（改善策等）
１ 不断の授業改善により、生徒の主体的な学びを高め、学力の向上を図るとともに､看護師・介護福祉士国家試験全員合格を目指す。	① グループ学習、調べ学習、学び合い学習などの主体的・対話的で深い学びとなる工夫を意図的・計画的に授業に取り入れる。	「先生は、考えたり、発言する機会を授業中に設けている」と評価した生徒の割合が Ａ　８０％以上 Ｂ　７５％以上 Ｃ　７０％以上 Ｄ　７０％未満　である。	Ｃ以下の場合は、授業形態、研修内容を再検討する。 １年生　８２．０％ ２年生　６９．４％ ３年生　８５．４％ 専攻科　９０．８％ 全　校　８１．４％ Ａ	生徒の学びの段階を踏まえた事例検討や発表の場面を積極的に取り入れた結果、全校の肯定評価が中間評価時と比較し２％上昇した。 ２年生には、習得した知識及び技能を深める学習活動を意図的に取り入れる工夫をする。 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、言語活動、問題解決的な学習を適宜取り入れる。また、各教科の見方・考え方を働かせる学習課題を提示する。
	② 発表や討論、事例検討などを通して、他者との対話、思考する場面を授業に取り入れる。	「班活動等では、積極的に参加することができた」 と自己評価をした生徒の割合が Ａ　８０％以上 Ｂ　７５％以上 Ｃ　７０％以上 Ｄ　７０％未満　　である。	Ｃ以下の場合は、指導方法を再検討する。 １年生　８２．１％ ２年生　７０．２％ ３年生　７５．８％ 専攻科　８９．７％ 全　校　８０．０％ Ａ	他者と対話し、思考を深めるペア・グループ活動を組み込んだ授業を推進した結果、全校の肯定評価が中間評価時と比較し4.4％上昇した。 グループなどで対話する場面、生徒が考える場面を計画的に取り入れ「主体的・対話的で深い学び」の視点で、さらなる授業力向上を図る。
	③ 専門教科の知識・技術の確実な定着を図るため、目標レベルに達するまで補習・個別指導を実施する。	偏差値４０未満の生徒が Ａ　０人 Ｂ　２人 Ｃ　４人 Ｄ　５人以上　　である。	偏差値４０未満の生徒が １年生：総合０人　Ａ 〈内訳〉①医学　０名　Ａ ②基看　０名　Ａ ２年生：総合０人　Ａ 〈内訳〉①医学　０名　Ａ ②基看　０名　Ａ ３年生：総合１名　Ｂ 〈内訳〉①人体　０名　Ａ ②基看　１名　Ｂ 全国模試　０名　Ａ	【１年生】**５年一貫校模試（１月）** ①医学　偏差値55.8　②基看　偏差値59.5 学校総合　５位/32校(1,436名)　専門偏差値58.4 【２年生】**５年一貫校模試（１月）** ①医学　偏差値58.8　②基看　偏差値58.5 学校総合　３位/41校(1,784名)　専門偏差値59.6 【３年生】**５年一貫校模試（１月）** ①医学　偏差値55.5　②基看　偏差値53.9 学校総合　５位/29校(1,176名)　専門偏差値55.2 **全国専門基礎模試(1月)** 学校総合28位/168校(10,031名)　偏差値55.6 看護の基礎になるため、教科書を丁寧に見直す補習学習により着実に学力の定着を図る。
		偏差値４０未満の生徒が Ａ　０人 Ｂ　１人 Ｃ　２人 Ｄ　３人以上　　である。	偏差値４０未満の生徒が 専攻科1年　０名　Ａ 専攻科2年　０名　Ａ ２月 看護師国家試験 **全員合格**	【専攻科１年生】基礎力模試（１月） 総合偏差値62.5。偏差値40未満の生徒が（必修）0人、（一般）0人。国試対策係を中心とした積み重ね学習を継続するとともに、弱点科目・学習内容の全体補習を実施する。また、学習不足の生徒に対し継続した個別補習により知識の定着を図る。 【専攻科２年生】看護模試（１月） 総合偏差値59.0。偏差値40未満の生徒は0人。確実な模試直し、グループ学習、土日補習や学習合宿で弱点補強、国試出題基準内容の定着に向けトレーニングを重ねた。

	④	＜１、２年生＞ 毎日の課題をチェックすることで、家庭学習を習慣化する。 ＜３年生＞ 分野毎の小テストや個別指導を実施することで、専門知識の確実な定着を図る。	＜１、２年生＞ 毎日の課題を提出する生徒の割合が Ａ　１００％ Ｂ　９５％以上 Ｃ　９０％以上 Ｄ　９０％未満　　である。 ＜３年生＞ 国家試験演習及び国家試験の個々の得点率65％以上の生徒の割合が Ａ　１００％ Ｂ　９５％以上 Ｃ　９０％以上 Ｄ　９０％未満　　である。	＜１年生＞ 毎日の課題を提出する生徒の割合が ９７．５％　Ｂ ＜２年生＞ 毎日の課題を提出する生徒の割合が ８４．０％　Ｄ ＜３年生＞ 個々の得点率65％以上の生徒の割合が ９６％　Ｂ	１年生は、家庭学習が定着してきた。担任を中心とした「課題はきちんと提出するものである」という譲らない姿勢が生徒に浸透した成果だと思われる。 ２年生は、中間評価では94.9％でＣ評価であったが２学期に入り半数以上の生徒が課題提出できない日があった。11月後半より多くの教員から働きかけを行い、全員が課題提出した日が増えてきたが、結果は、84.0％だった。来年度は、年度当初より個別指導を含めた粘り強い指導を行っていく。 ３年生は、12月には25名中24名が得点率65％以上となった。学習合宿や８・９限補習を行うことにより、知識の定着を図ってきたが、全員が得点率65％以上には到達できなかった。今後、国家試験に向けた３年間の取組方の再検討を実施する。

学校関係者評価委員会の評価	２年生の評価が低くなっているのは中だるみの時期なのか気になるが、のびしろがあり変化していくだろう。授業の中で、考える場面やコミュニケーション能力向上への取り組みはなされている。 生徒と教員間での意識の違いが見えるとよい。
学校関係者評価委員会の評価 結果を踏まえた今後の改善方策	・2年生に関しては、教員間の連携による指導強化の実施を継続していく。 ・生徒のアンケート結果と教員の意識との違いは今後調査していく。 ・看護師・介護福祉士国家試験全員合格を目指し、学年に応じた知識と技術の定着、学力向上に努めていく。

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度以降の取り組み（改善策等）
２ 田鶴浜の学びを通して、看護師・介護福祉士に求められる健康な心身の育成を図る。	① 「田鶴浜高等学校いじめ防止基本方針」に基づいて、いじめのない学校作りを推進する。	アンケートで「互いの人格を尊重し、いじめを絶対に許さないという意識」について「大いに高まった」と「高まった」の回答が Ａ　９０％以上 Ｂ　８０％以上 Ｃ　７０％以上 Ｄ　７０％未満　　である。	アンケートの結果、「いじめを絶対許さないという意識」について、「大いに高まった」「高まった」の回答が ９３．２％　　Ａ	アンケートの結果は下記の通りであった。 １年生：94.9％　２年生：89.1％　３年生：95.2％ ９月のアンケート結果と比較すると、どの学年も減少している。「高まらなかった」の理由には「講演会や学年集会の回数が減った」「授業でいじめについて触れることが少なくなった」「いじめは許されるものではないという意識は元々高い」等が挙げられた。 生徒の「いじめは絶対に許されないもの」という意識が希薄にならないよう生徒観察・情報収集し、学年集会等の機会を生かし指導していく。
	② 立ち止まって丁寧に挨拶をすることができるよう継続指導する。	保護者アンケートで「立ち止まって挨拶できる」の回答が Ａ　９０％以上 Ｂ　８０％以上 Ｃ　７０％以上 Ｄ　７０％未満　　である。	Ｃ以下の場合は、指導方法を再検討する。 できている　８２．０％ できていない１１．８％ 無　回　答　　６．２％ ８２．０％　　Ｂ	「立ち止まって挨拶」をするよう集会やショート・ホームを通して呼びかけてきたが定着していない。第１回の「できている」の回答が84.5％であったが、第２回は更に2.5％減少している。取組の見直し、指導の徹底を図らなければならない。 目上の方に正体で挨拶することの意義を、挨拶強化週間を設けて習慣化を図り、自発的に挨拶できるよう指導する。
	③ 生徒、職員に声かけを	アンケートにて「参加できる	アンケートの結果、「参	今年度、生徒はクラス行事、学校行事などさまざま

		行うことにより部活動参加率向上を図る。	日はほぼ参加できた」生徒の割合が Ａ　８０％以上 Ｂ　７０％以上 Ｃ　６０％以上 Ｄ　６０％未満　　である。	加できる日はほぼ参加出来た」生徒の割合は ８４．７　％ →　Ａ　評価	な活動に取り組む中で、同様に部活動にも参加している様子が見られた。職員への声かけにより、部活動に当てられる時間は増えたことが成果として挙げられる。 ただし、部活動の実施状況には大きな差が見られる。生徒が１つでも多く達成感が得られるよう、部活動の活発化につながる方策を考える必要がある。
	④	全身持久力の向上を目的とした取り組みを行い、心身ともに健全でたくましい生徒の育成を目指す。	２０ｍシャトルランの秋の記録が春の記録と比較して１割以上向上している生徒が Ａ　８０％以上 Ｂ　７０％以上 Ｃ　６０％以上 Ｄ　６０％未満　　である。	達成度は １年生　８４．８　％ ２年生　４４．６　％ ３年生　６３．１　％ 全校　６１．７　％ 結果　Ｃ	学年別で見ると１年生が良い数値を出している。他の学年に比べて授業数が３単位（他は２単位）と多いこと、運動部活動で日頃より体力向上を目指して熱心に取り組む生徒が多いことがこの結果につながったと考えられる。２年生の数値が低く出ているのは、春の記録がすでに高得点で、それをさらに１割向上させるとなると非常に高い目標が課せられた生徒が多く、なかなか目標達成をすることができずにいたと思われる。 ３年生は部活動引退で運動時間が減少し、なおかつ実習で授業数も少ない中、６割以上の生徒が達成したという結果は喜ばしく感じている。 授業内でのシャトルランに対する取り組みは常に全力で意欲的に取り組んでおり、目標は達成できなかったものの確実に体力が向上したと感じている生徒が多い。次年度への意欲喚起にもつながった。

学校関係者評価委員会の評価	いじめに関する意識は高い学校であるが、刺激の継続は必要と思う。挨拶への取り組み、及び部活動にも意欲を持ってよい方向に向かおうとする姿勢を大切にしてほしい。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・挨拶に関しては集会などで定期的に全体指導はしている。挨拶は人間関係の基礎であり、看護・福祉を目指す本校生徒にとって重要である。今後も根気よく指導を続け、気持ちの良い挨拶のできる生徒を育てていく。

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度以降の取り組み（改善策等）
３　本校の特色ある教育活動や、地域の医療・福祉を支える人材の必要性等の広報に努め、志願者の増加を図る。	①　体験入学、学校説明会、個別説明会の説明内容を充実させるとともに、学校公開日、学校祭等への中学生の参加者数の増加を図り、本校の教育活動とその成果の広報を強化する。	一般入試の志願倍率（学校倍率）が１．１０倍を Ａ　上回った。 Ｂ　同程度だった。 Ｃ　下回った。 Ｄ　大きく下回った。	衛生看護科　１．１０倍 健康福祉科　０．５５倍 ０．８１倍 Ｃ	衛生看護科は志願者を確保したが、健康福祉科は志願者確保に至らなかった。 健康福祉科の志願者数が減少した。卒業後の進路の多様性と人間力を育成している点について継続して広報活動をする。 本校生徒の生き生きとした高校生活の様子が伝わる魅力的な広報誌の作成と配付、説明会などでの説明内容と方法の工夫、本校の教育内容を発信する機会を一層設定するなど広報活動を強化する。
	②　体験入学、学校説明会、	体験者アンケートで「５年一	アンケートにおいて	５年一貫教育での看護師教育の魅力について学校説

		出前授業などを通して、衛生看護科の魅力を発信する。	貫教育での看護師養成の関心が高まった」の回答が Ａ　９０％以上 Ｂ　８０％以上 Ｃ　７０％以上 Ｄ　７０％未満　　である。	「理解が深まったか」の回答が ９２．７％　Ａ	明会、体験入学、出前授業、産業教育フェア等で発信した。 参加者582名へのアンケート調査の結果、「大変高まった」50.8%、「概ね高まった」41.9%、「あまり高まらない」5.3%、「高まらない」2.0%であった。 まだ、衛生看護科の理解度が高いとは言えないため、今後も広報活動を通して魅力を発信していく。
	③	小・中学校での出前授業や地域との交流会、講習会を通して、福祉や本校への理解を深める。	アンケートで「福祉や本校健康福祉科への関心が大変高まった」の回答が Ａ　９０％以上 Ｂ　８０％以上 Ｃ　７０％以上 Ｄ　７０％未満　　である。	アンケートにおいて「もっと知りたい」の回答が ８４．１％　Ｂ	７月の中間まとめでは81.5%であったが、後半では86.6%であったため、年間では84.1%Ｂ評価であった。本校や福祉に興味・関心がある小学生は多いと思われるため、今後も出前授業・交流授業を継続していこうと考えている。今年度は、小学校の出前授業・交流授業の要請が少なかったため、ＰＲ方法を再検討する。

学校関係者評価委員会の評価	認知症カフェなど地域における本校生徒の活動は素晴らしい。これからも続けて欲しい。マスメディアを利用してアピールすべき。それが倍率にも繋がると思う。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・看護科では産学連携事業、能登病院トリアージ参加等、福祉科では小学校との交流、出前授業等での広報活動を実施している。月刊福祉の全国版でも取り上げられた。今後も広報活動を継続し、よりアピールできる工夫をしていく。

重点目標		具体的取組		実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度以降の取り組み（改善策等）
４	業務改善の推進により教職員の多忙化の改善を図る。	①	業務分担の適正化を図り、時間外勤務時間の平均を前年度より減少させる。	具体の取組を積極的に進め、一月あたりの時間外勤務時間が４０時間未満の教員の割合が、 Ａ　６０％以上 Ｂ　５０％以上 Ｃ　４０％以上 Ｄ　４０％未満　である。	一月あたりの時間外勤務時間が４０時間未満の教員の割合が、 ３９．４％　Ｄ	4月から3月までの1年間の時間外勤務時間の平均が、45.1時間であり、一月あたりの時間外勤務時間が40時間未満の教員は、33名中13名であった。 業務の効率化をはかり、業務改善に向けた学校の環境整備を推進し、さらなる意識改革が図れるよう取組を進めていく。

学校関係者評価委員会の評価	教員は国家試験対策で大変だと思うが、ＩＣＴ活用での時間短縮や年度単位でやりくりするなどの工夫を。 頑張りすぎて「先生」という職業の魅力がなくなるのはいけない。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・総体前の部活動や、国家試験前の補習等、時期や教員間の差はあるが、教員の中でチームでやっていこう等の意識は育っている。今後も取り組んでいく。